

## 高大接続元年！ 大きく入試制度が変わるなかで

令和3年(2021)度の入試は、高大接続改革のなかで実施される最初の試験となります。高大接続改革は、グローバル化の進展や人工知能技術をはじめとする技術革新などに伴い、社会構造も急速に、かつ大きく変革しており、予見の困難な時代の中で新たな価値を創造していく力を育てることが必要とされています。そこで『学力の3要素』（1. 知識・技能、2. 思考力・判断力・表現力、3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）を育成・評価し、高校教育では確実に育成し、大学教育で更なる伸長を図るため、それをつなぐ大学入学者選抜においても、一体的な改革を進めていく必要があります、高校と大学の接続である入試制度も改革されることになったのです。

高大接続改革は、2012年8月に中央教育審議会で諮問され、2015年1月に実行プランが発表され、従来のセンター試験を廃し、大学入学共通テストを実施することになりました。当初のプランでは、会話文を題材とした問題や複数テキスト問題などが導入される他、国語・数学の記述問題の導入や、英語民間検定試験の活用などが謳われていましたが、記述問題や英語民間検定試験については、延期や再検討することになりました。

新型コロナウイルスの影響で変更も検討されていた大学入試の日程がようやく決まりました。11月の学校推薦型選抜（旧指定校推薦）の出願(1日から)と、来年1月の大学入学共通テストの試験日は予定通り16・17日に。最も早い総合型選抜（旧A0入試）の出願は、予定された9月1日から2週間遅らせ15日から開始となりました。総合型選抜を除けば日程に変更はありませんが、「学習の遅れ」を理由にした、共通テストの第2日程（追試）が1月30・31日に設定されました。また、各大学の個別試験における出題範囲の配慮など、例年と異なる対応も示されました。

2月に入ると各大学の一般選抜が本格化し、中旬には私立大学の合格発表が始まります。2月25日から国公立大学の前期日程試験が開始され、3月6日から合格発表があり、後期日程は3月12日から行われ、20日から合格発表がなされます。また、22日から追試があり、26日から発表されます。

### 学校推薦型選抜と総合型選抜とは

大学入試制度のなかで各大学が実施する一般選抜以外に、学校推薦型選抜、総合型選抜があります。学校推薦型選抜は旧指定校・公募推薦、総合型選抜は旧A0入試にほぼ該当するものです。近年、東京大学や京都大学などの旧帝大レベルでも推薦入試が取り入られています。

学校推薦型選抜は、指定校制と公募制の2つに大別することができます。指定校制なら大学から指定された高校の生徒が出願して受験することができ、公募制なら公募条件を満たして学校長が推薦することによって受験できます。指定校制は主に私立大学で行われています。指定校制の場合は、専願制を取っている大学が多いので、出願する時は注意して

ください。学校推薦型選抜の選抜方法は、小論文、面接、プレゼンテーション、口頭試問、実技・教科に関するテスト、大学入学共通テスト、調査書等、各大学によって異なっています。特に、国公立大学で大学入学共通テストを課す大学は少なくありません。

総合型選抜は、受験生からのエントリーシート等の提出書類に、面接や小論文、プレゼンテーションなどを課して総合的に評価する入試です。A0入試と異なり、受験生の能力や適性、意欲などを選抜基準としており、A0入試より大学入学共通テストや学力テスト、口頭試問など、学力を確認する選抜方法が採用されています。国公立大学の総合型選抜は、出願条件が有資格者や全国大会の上位者など、結構レベルの高いものもあり、また、東京大学や京都大学のように大学入試共通テストを課す大学もあります。

私立大学の総合型選抜は、各大学によって選抜方法が異なります。提出書類、面接、小論文など以外に、プレゼンテーションやグループディスカッション、スクーリングの参加を課す大学もあります。総合型選抜は、早い時期に志望校を決定する必要があるため、早くから志望大学の入試情報を入手してください。

どこの大学でも良いからというだけで学校推薦型選抜や総合型選抜で入学して、学業不振や退学などに陥るケースは少なくありません。安易な受験は禁物です。自らの能力・適性を考え、大学を選びましょう。

### 専門学校の動向について

首都圏の専門学校は休業要請を受け、例年4月～6月に開催される合同説明会やオープンキャンパスが実施できず、例年以上にオンライン広報(オンラインでのキャンパス見学、学校説明会、相談会)を展開し、6月1日より願書を受付ける学校も少なからずありました。

今回のコロナ禍により将来の就職を考え、人気のある職業や職種が変わり、専門学校の学科等にも影響がでると予想されます。テレワークやリモート会議、オンライン授業などの一般化から当然ITに強い人材が求められてくると思います。また、不況に強いといわれる資格の医療、教育、福祉、情報、工学などの分野に、いままで以上に人気が高まると思われれます。特に医療系の看護などは倍率も高く、学力試験もありますので、進学を考える生徒は早めの準備が必要です。

### 高卒採用に関して

就職に関しては、新型コロナの影響で企業側も次年度の採用計画を立てにくかったり、高卒者を採用する余裕がなかったりするケースがあるかもしれません。ここ数年続いていた高卒新卒者の採用計画での増加傾向には歯止めがかかっています。しかしながら企業への高卒新卒採用計画のアンケート結果から、次年度の採用数は大幅に悪化することはないと思います。例年ならこの時期、企業の採用担当者は学校訪問をして求人票を置いていきますが、今年は学校訪問ができずに困っていると聞きました。また、高校生が職場見学を希望しても見学することができない企業もあります。本校で就職を希望する生徒は、今後の動向をよく見ていく必要がありますので、希望者は担任、就職担当者と面談等をとおして、よく相談してください。